

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：野川南台保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：長田理英子	定員（利用人数）：定員：70名 （利用者：72名）
所在地：〒216-0042 川崎市宮前区南野川3-7-1	
TEL：044-740-1833	
ホームページ：http://seisa.or.jp/nschool/nogawaminami.html	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2001年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 星槎	
職員数	常勤職員： 16名 非常勤職員： 6名
専門職員	（専門職の名称） 名 栄養士： 1名
	保育士： 12名 調理師： 1名
	看護師： 1名
施設・設備の概要	（居室数）クラス室：6室、調理室・厨房：1、事務室：1
	（設備等）トイレ：6（こども3、大人3） 屋外園庭

③理念・基本方針

保育理念：

「ひとを認める」「ひとを排除しない」「仲間をつくる」の星槎の理念をもとに、こどもたちの健やかな成長ため家庭的な雰囲気の中で保護者を支え寄り添い、こどもたちが安心して生活できる保育園をめざします。星槎の理念のもと、園に集うすべての人に援助をしていきます。

保育の目的：

星槎の理念をもとに、未来を担うこどもたちの健やかな成長の為、周りの人から愛され多くの経験を積み重ねながら、人格形成への基盤を作っていく援助をし、保育所保育指針に上げる目標が達成されるよう教育を行うことを目的とします。

保育方針：

集団生活を通じていろいろな活動を積極的に経験し様々な人とかわり、愛情と信頼感そして人を大切にする心を育てます。一人ひとりの成長をふまえ、心身ともに調和のとれたこどもの育成に努めます。

保育目標：「こころもからだもいっばいうごかそう」

・心身ともに健康なこども ・感謝の気持ちをもてるこども ・誰にでも思いやりのもてるこども ・自主性、自発性のもてるこども ・創意性のあるこども ・何事にも意欲的に取り組めるこども ・生命の大切さを知るこども に育てます。

④施設・事業所の特徴的な取組

乳幼児期に育つと言われている非認知能力（意欲・自尊心・粘り強さ・人と関わる力など）は、こども主体の遊びで育ちます。こどもたちのやる気、意欲、粘り強さ、探求する力が育つような活動を取り入れています。

◎戶外遊び

季節を肌で感じることができる自然環境を生かし、一年を通して様々な場所へ散歩に出かけます。近隣にはアスレチックや遊具が充実した公園、自然がいっぱいの公園、ボール遊びが可能な公園等、その目的に合った公園を選んで出かけています。

また、園庭では木登りやクライミングウォールなど体全体を使っての遊びや、草木花や、砂、泥んこなどの自然に触れたダイナミックな遊びを取り入れ、運動機能の発達や豊かな感性を育てています。雨天時も、広いホールで思い切り体を動かします。

◎室内遊び

年齢に応じた道具を使って絵画制作・うたや音楽あそびなど、様々な活動を日々取り入れています。おともだちごっこ遊びやゲームを通して、人を思いやる気持ちや協力し合うこと、ルールを学びます。役割り上クラスの担任をおきますが、全ての職員が全ての園児の担任であるという意義で活動しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年10月15日（契約日）～ 令和3年3月30日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（前回：平成23年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1) 職種を超えたチームワークの良さが子どもたちの成長を支えています

保育士、看護師、栄養士等の距離感が近く、何でも話し合える環境を整えています。ミーティングにおいても上下関係や職種を問わず自由に意見を出し合い、考えを吸い上げることによってそれぞれの能力が引き出され、職員はそれぞれの得意分野を活かし幅広い視点で子どもに接しています。特に子どもの発達に合った保育環境作りに積極的に取り組んでおり、子どもの健やかな成長を支えています。

入退職や異動が少ないことも保育の質が高く維持されている要因となっていると考えられ、常勤職と短時間職員の間壁もなく円滑な情報共有が進み、園長・主任の優しさや気配りで気軽に相談できる関係が出来上がっています。会議では、仲の良い関係が緊張感の欠ける組織にならないようにと園長が言葉を選んで伝えており、保育園運営に職員が一丸となって取り組んでいます。

2) 子どもたちが主体となって遊び楽しむ機会をつくっています

感染症予防の徹底により開催が困難な園行事も、時期や方法を工夫して実施しています。伝統行事や文化の継承に力を入れた保育に取り組んでおり、保育内容も大幅変更を余儀なくされる中、職員が知恵を出し合って子どもたちが楽しめる企画で実施しています。食育では大好きな調理保育ができず栽培や収穫、クイズなどで内容を充実させました。生活発表会は皆で日頃の成果を発表し、幕間に職員の出し物に専門性を発揮し、絵描き歌、竹馬でジャグリング、アンパンマン変身もあり、子どもたちの忘れられない思い出となっています。感染症予防では、玩具やドアノブ等の消毒や食事、午睡時の布団の間隔の取り方など職員が手順を共有し安全の確認を徹底させ、全ての園児が主体となって遊び楽しむ園運営に取り組んでいます。

◇改善を求められる点

1)園業務を網羅したマニュアル集の作成

法人の保育園職員マニュアルは、一枚目に全国保育士倫理綱領を、巻末には児童憲章、子どもの権利条約を記載し、保育士の使命、保育環境、発達の特徴と指導計画の策定と展開などを判り易く説明しており職員に配付しています。園では散歩中の事故のニュースから散歩ルートを見直しマニュアルを作り直すなどしており、同じようにプール・水遊びや保育の流れ等は明確になっていますが保育業務を網羅するまでには至っていません。経験豊かな職員が多く口頭での伝達で仕事が進み問題は起きていませんが、園独自の保育業務マニュアルを再度編集し定期更新と最新版の管理も期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

前回、第三者評価を受審してから期間もあり、職員全体で自分たちの保育を見直す良い機会となりました。

第三者評価について外部のからの視点で見ていただくことで今まで行ってきたことの良い部分、改善点、見えていなかった部分が見え、また、職員全員で一つ一つ設問について考えることで、一人ひとり理解していると思っていた部分が具体的に理解していなかったり、別の捉え方で見ていることがわかったりすることができました。

今回の第三者評価結果をもとにさらに職員と理解を深めより良い保育に取り組んでいきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり